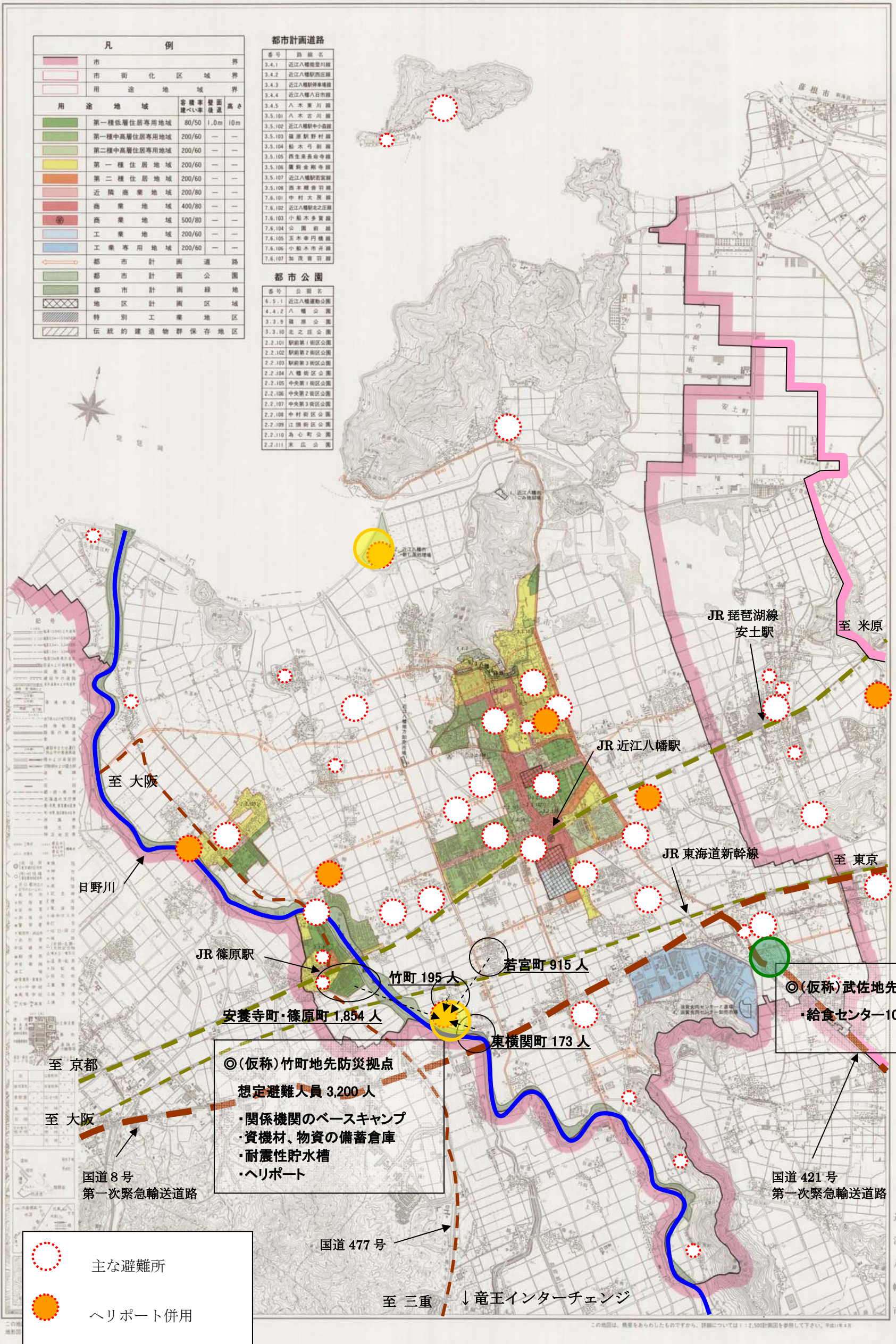


近江八幡八日市都市計画図(近江八幡市)



凡 例			
[Pink Box]	市 界		
[Pink Box]	市 街 化 区 域 界		
[Pink Box]	用 途 地 域 界		
用 途 地 域	容 積 率	建 ぺい 率	高 さ
[Green Box]	80/50	1.0m	10m
[Light Green Box]	200/60	—	—
[Yellow Box]	200/60	—	—
[Orange Box]	200/60	—	—
[Red Box]	200/80	—	—
[Dark Red Box]	400/80	—	—
[Red Box]	500/80	—	—
[Blue Box]	200/60	—	—
[Blue Box]	200/60	—	—
[Red Arrow]	都 市 計 画 道 路		
[Green Box]	都 市 計 画 公 園		
[Green Box]	都 市 計 画 緑 地		
[Cross-hatch]	地 区 計 画 区 域		
[Blue-hatch]	特 別 工 業 地 区		
[Diagonal-hatch]	伝 統 的 建 造 物 群 保 存 地 区		

都市計画道路	
番号	路線名
3.4.1	近江八幡総合支線
3.4.2	近江八幡西支線
3.4.3	近江八幡東支線
3.4.4	近江八幡八日市線
3.4.5	八本堂川線
3.5.101	八本堂川線
3.5.102	近江八幡中川線
3.5.103	藤原新野村線
3.5.104	船木弓削線
3.5.105	西生家命寺線
3.5.106	藤原金剛寺線
3.5.107	近江八幡若宮線
3.5.108	西本郷若宮線
7.6.101	中村大原線
7.6.102	近江八幡北之庄線
7.6.103	小船水手貫線
7.6.104	公園前線
7.6.105	玉本寺戸線
7.6.106	小船水手貫線
7.6.107	加茂若宮線

都市公園	
番号	公園名
6.5.1	近江八幡運動公園
4.4.2	八幡公園
3.3.9	藤原公園
3.3.10	北之庄公園
2.2.101	駅前第1街区公園
2.2.102	駅前第2街区公園
2.2.103	駅前第3街区公園
2.2.104	八幡街区公園
2.2.105	中央第1街区公園
2.2.106	中央第2街区公園
2.2.107	中央第3街区公園
2.2.108	中村街区公園
2.2.109	江原街区公園
2.2.110	海心街区公園
2.2.111	東広公園

△ 朝日風洋株式会社調製

⊙ 主な避難所
⊙ ヘリポート併用

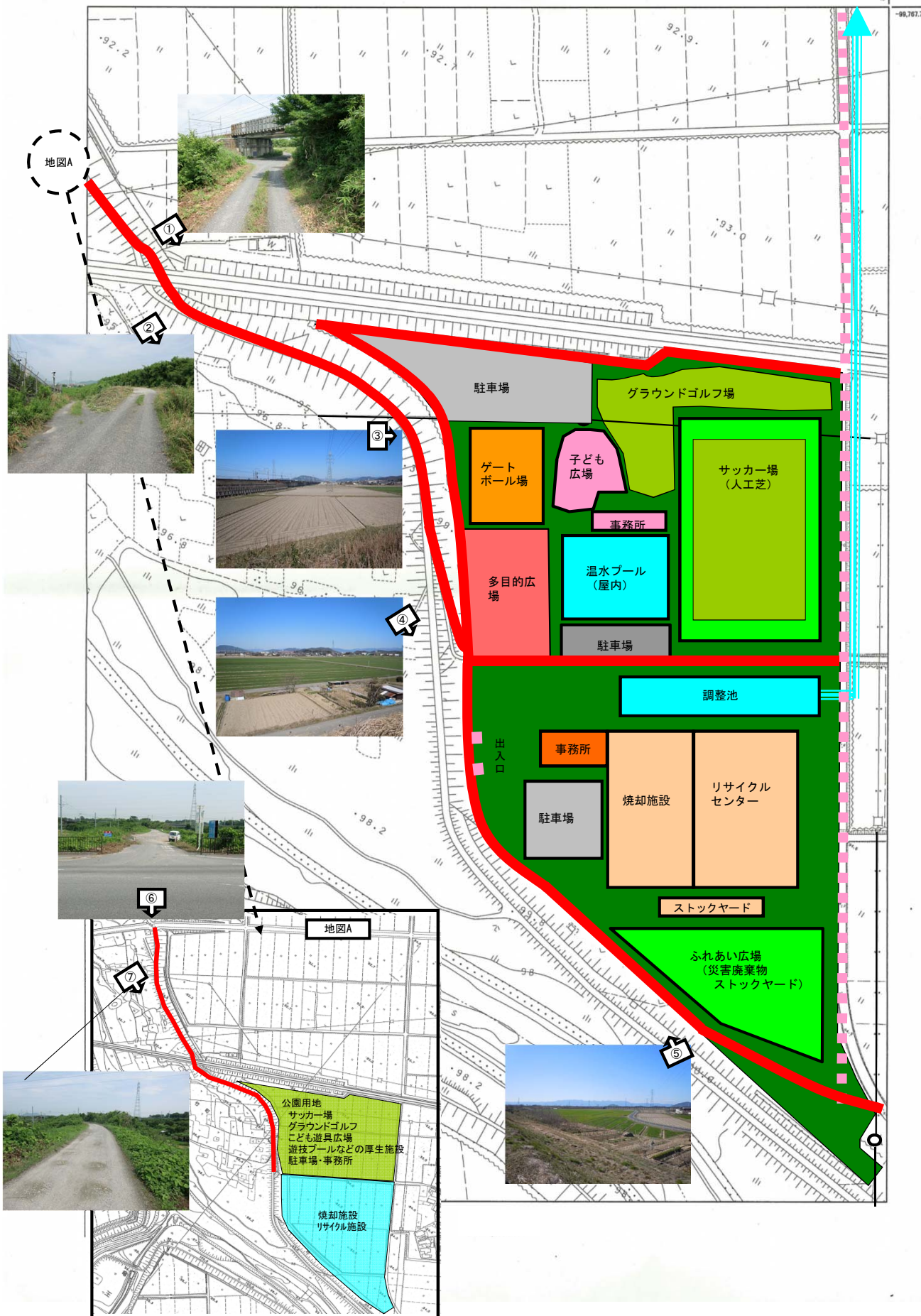
◎(仮称)竹町地先防災拠点
 想定避難人員 3,200人
 ・関係機関のベースキャンプ
 ・資機材、物資の備蓄倉庫
 ・耐震性貯水槽
 ・ヘリポート

◎(仮称)武佐地先防災拠点
 ・給食センター10,000食

この地図は、簡略をあらわしたものですから、詳細については1:2,500計画図を参照して下さい。平成19年4月

(仮称) 新エネルギーパーク事業イメージ図

近江八幡市 竹町



○ (仮称) 新エネルギーパーク事業基本方針

少子高齢化社会の到来により、健康への関心が高まると同時に、市民の健康増進を図る運動に対するニーズはますます増加・多様化しています。このような傾向は団塊の世代が退職を迎えている現状ではいっそう増加してきています。昨年3月の合併による『新市の基本計画』においては、『健康づくりの支援』や、『生涯スポーツの推進』において、『市民の体力づくりの推進や健康保持・増進を目的とした交流の場の提供』や『スポーツ・レクリエーション施設の整備充実』が方針として掲げられているところであります。

そのような状況の中、本市においては、市民一人当たりの都市公園面積の割合が3.69㎡/人（平成20年度統計値、以下同じ。）であり、全国平均（9.53㎡/人）や県平均（8.3㎡/人）と比較しても低い状況にあり、都市公園の充実や見直しなどにより、市民ニーズに見合う諸施設の整備が望まれています。

また、東日本大震災では経験したことのない大規模な災害が発生し、依然、復興の目処が立たない状況にあります。このことは今までの防災視点を大きく変える事となり、近年発生した災害を基に地域防災の見直しを行う事が求められています。このような状況において整備する都市公園には、自治体の社会貢献の観点から基礎自治体間の絆を密にし、安全・安心の機能を持たせた防災機能を有した公園整備として、有事の際には一刻も早い地域の復興を目指した復興拠点としての機能を持たせ、また、他市町において発生した災害には迅速な支援を行える支援拠点としての機能を有する必要があります。さらに、市の災害復旧は、災害発生から3日間を生活環境支援の集中期間と位置づけし、被災者への食の提供を速やかに開始する為のシステムを構築し、防災機能を持つ都市公園の役割の効果促進を行います。

なお、今後策定を進める都市計画マスタープランや地域防災計画等においても、都市公園の見直しや防災拠点として計画を反映させます。

一方、近年自治体が整備する一般廃棄物処理施設においては、その周辺に各種の厚生施設を整備して住民の皆様にも憩いの場を提供し、一般廃棄物処理施設を身近なものとして受入れていただき、ごみ問題をはじめとする環境問題へ関心を一層深めていただくこととしている事例が多く見られます。

このようなことから、今般竹町地先を一般廃棄物処理施設の建設候補地として決定するについては、上記の社会情勢をはじめ『新市の基本方針』を鑑み、また、地元からの要望との一致を見出しながら検討を加えた結果、今回新たに整備する一般廃棄物処理施設の隣接地において、子どもから高齢者までが利用できる健康増進のための運動施設を都市公園として整備を行っていく方針を決定しました。

整備面積は、概ね4haで、国の交付金等を活用し、平成24年度内着工を目標として考えています。

また、処理施設からの熱エネルギーをできる限り有効利用することを検討しており、新一般廃棄物処理施設（4ha）と併せて、環境にやさしい施設整備を進めます。

○ (仮称) 新エネルギーパーク事業整備計画

1. 整備方針

少子高齢化社会の到来により、健康への関心が高まると同時に、市民の健康増進を図る運動に対するニーズはますます増加・多様化しています。このような傾向は団塊の世代が退職を迎えている現状ではいっそう増加してきています。

そのような状況の中、本市においては、市民一人当たりの都市公園面積の割合が3.69㎡/人（平成20年度統計値、以下同じ。）であり、全国平均（9.53㎡/人）や県平均（8.3㎡/人）と比較しても低い状況にあり、都市公園の充実や見直しなどにより、市民ニーズに見合う諸施設の整備が望まれています。

一方、阪神淡路大震災、東日本大震災など地震災害が続く中、防災機能を持った公共施設の充実も望まれています。

このようなことから、上記の社会情勢をはじめ本市の基盤整備状況や竹町地先での一般廃棄物処理施設の整備に伴う地元からの要望を鑑み、今回新たに整備する一般廃棄物処理施設の隣接地において、子どもから高齢者までが利用できる健康増進のための運動施設を都市公園として整備するとともに、災害復興・支援拠点としての機能を併せ持ったものとして災害に備えた施設整備を行っていきます。

2. 施設内容

①主な整備施設。

- ・ サッカー場（1面、人工芝）・・・（約10,000㎡）
- ・ 温水プール・・・（約2,000㎡）
- ・ グラウンドゴルフ場・・・（約5,000㎡）
- ・ 多目的グラウンド・・・（約5,000㎡）
- ・ 子ども広場・・・（約500㎡）
- ・ ゲートボール場・・・（約2,500㎡）
- ・ その他 用地費・造成費等・・・
- 管理棟・駐車場・・・（約2,000㎡）
- 緑地・・・（約6,000㎡）

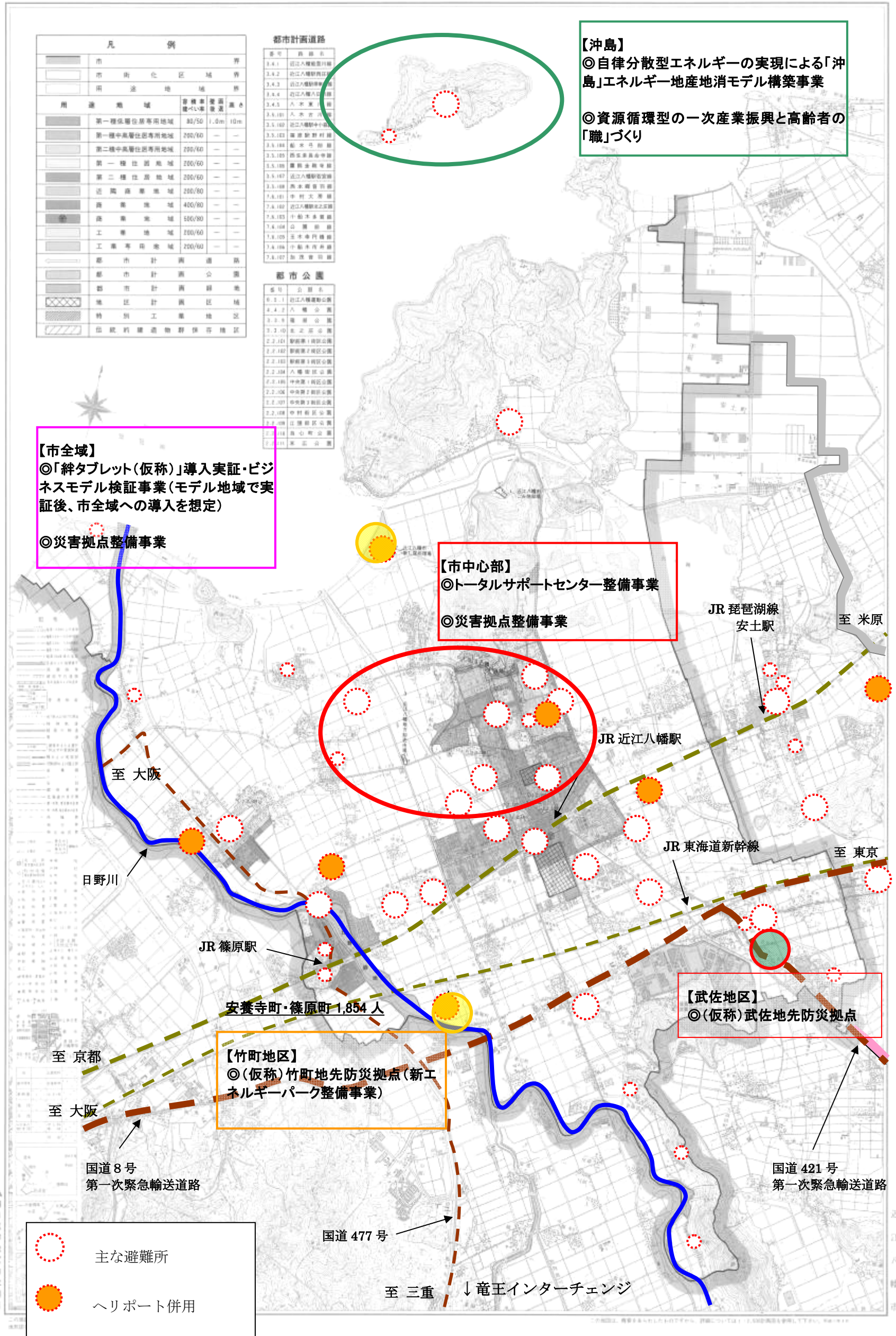
②防災公園としての機能

- ・ 仮設住宅用地・・・多目的広場
- ・ 救援物資置場・・・管理事務所
- ・ ヘリポート・・・サッカー場
- ・ 一次避難所・・・管理事務所ホール
- ・ 水防倉庫・・・敷地内に水防用の倉庫を設置
- ・ 災害廃棄物ストックヤード・・・一般廃棄物施設用地内
ふれあい広場

③今後のスケジュール

- ・ 平成23年度・・・計画策定
- ・ 平成24年度・・・都市計画決定・用地買収(施設と同時買収)
- ・ 平成25年度～平成26年度 工事

近江八幡八日市都市計画図(近江八幡市)



別添資料4

広域防災クラスターシステム

先進的な社会貢献のまちづくり

滋賀県近江八幡市

1-①. 防災クラスターの目的

◆ 目標

3.11東日本大震災を身をもって経験しました。この経験を基に災害復旧及び支援に迅速な対応をする為、日頃からの行政間連携や防災システムの構築と不測の事態に迅速に対応できる良質な社会基盤の整備が必要です。

全国を幾つかにブロック分けし、災害時の復興支援を目的とし、災害圧力の少ない地域を防災・災害復旧拠点として、位置づけ整備する事により、行政、組織、建物、道路、空地及び既存機能等を相互に関連付けた仕組みとして絆を結ぶ防災クラスターを構築します。

1-②. 防災クラスターの目的

◆ 東日本大震災に学ぶ

◇ 基礎自治体における防災拠点の喪失(庁舎等)

- ・ 初動対応が遅れる
- ・ 情報の収集や発信及び活用ができない
- ・ 支援の受け入れ態勢が確保できない
- ・ 市民の拠りどころがない
- ・ その他

◇ ライフライン機能の停止

- ・ 飲料水、電気、ガスの不足による生命の危機
- ・ 排泄物の放置による自然環境や衛生環境の悪化
- ・ その他

1-③. 防災クラスターの目的

◆ 被災地支援

◇自治体機能の一時避難受入

- ・津波 — (大阪、京都、兵庫、和歌山、福井、三重、他)
- ・原子力発電所事故 — (福井)
- ・地震 — (滋賀、大阪、京都、兵庫、和歌山、福井、三重、他)

◇被災者の一時避難受入

- ・全国的に支援

◇災害による排泄物汚泥受入

- ・全国的に支援

◇物資支援

- ・全国的に支援

◆ 社会資本整備

◇防災拠点整備

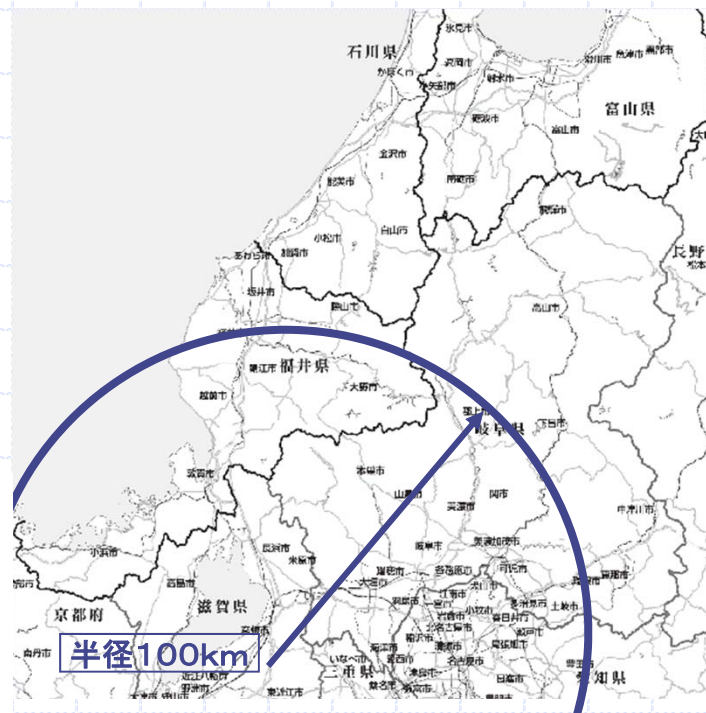
◇自主防災組織強化

◇受入施設の整備

2-①. 滋賀県近江八幡市

- ・東経 136° 05' 53"
- ・北緯 35° 07' 42"
- ・海拔 84.79m

◆ 日本の中央に位置し、北陸、近畿、中部の主要都市まで100km圏内にある。



2-②. 滋賀県近江八幡市

- ・人口：81,885人
- ・世帯数：30,368世帯
- ・面積：177.39km²
(内琵琶湖：76.12km²)

◆ 琵琶湖の東岸で湖東平野の中央部に位置する



広域防災クラスターシステム

3. 近江八幡市の特徴

◆ 近江八幡市は災害に強く、また、豊富な水源である琵琶湖を抱え先導的に自然環境の保全を進めており、さらに、交通の優位性から支援物資を効果的に配送する事が可能な都市です。このことから、全国への防災支援都市及び防災拠点都市となり得るまちです。

◇ 過去の地震発生事例で被害が極めて小さい

- ・ 1662年 6月16日 比良岳付近（震度7以上：災害不明：花折断層又は西岸断層に起因）
- ・ 1819年 8月 2日 伊勢・美濃・近江地震（震度5程度：潰家82戸、半壊160戸、死者5名）
- ・ 1995年 1月17日 阪神淡路大地震（震度7程度：瓦のずれ等）

◇ 日本の交通結節点であり交通が途絶える事はない

- ・ 日本のほぼ中央に位置する
- ・ 国道8号、名神高速道路、JR東海道本線
- ・ 湖上交通（琵琶湖）
- ・ 中山道、朝鮮人街道、八風街道

4. 広域防災クラスター（絆）

◆ 社会貢献（情報の集積と共有、及びスムーズな支援）

◇ 要因

- ・ 地震、津波
- ・ 台風、局地的豪雨
- ・ 原子力発電事故
- ・ その他

◇ 社会貢献（衣、食、住、環境）

- ・ 市民、自治体機能の避難受入れ
- ・ 支援物資の集積から配送手配
- ・ 物資、人員の支援
- ・ 被災地物産販売支援
- ・ 環境保全（災害汚物受入）

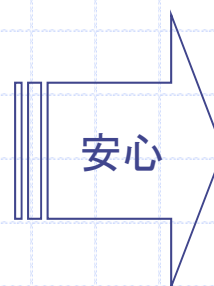


広域防災クラスターシステム

5. 広域防災クラスター（安心）

◆ 絆支援・災害復旧（迅速な対応：衣、食、住、環境）

- ◇ 防災公園（一時避難場所の提供）
- ◇ 市営住宅（住居の提供）
- ◇ 炊出し（食の提供）
- ◇ 備蓄倉庫（衣服など日用品の提供）
- ◇ 災害汚物受入（環境保全）



- ◇ 優良な社会基盤の整備
- ◇ 自主防災組織の充実
- ◇ 防災・減災啓発

6. 整備事業

◆ 広域的連携を軸とした防災クラスターをパッケージとし、災害による避難等の受入れ自治体の基盤強化を目的とした新たな交付金制度創設への働きかけ。

◇ 近江八幡市での必要な整備事業として、防災関連の基幹事業への位置づけ

- ・ 防災拠点整備事業（※）
- ・ 防災連絡道路整備事業
- ・ 市営住宅整備事業
- ・ 防災コミュニティセンター整備事業（※）
- ・ 給食センター整備事業（※）
- ・ 防災公園整備事業（※）
- ・ 環境保全（大野壺）整備事業（※）
- ・ 防災貯留水槽整備事業

（※）は現在の社会資本整備交付金制度では基幹事業にならない事業

7. 担当部署

滋賀県近江八幡市
総合政策部 政策推進課

電話番号 : 0748-36-5523(直)

ファックス : 0748-32-2695

E-mail : 010202@city.omihachiman.lg.jp

別添資料5

・エネルギーの地産地消と地域資源の発信

— 沖島夢プラン —

沖島の概要

日本で唯一の淡水湖に浮かぶ人が暮らす島

- ◆ 面積 1.52km²
- ◆ 周囲 6.8 km
- ◆ 最高部 225.0m
- ◆ 人口 356人
- ◆ 世帯数 139世帯
- ◆ 産業別人口



一次産業	二次産業	三次産業	総数
148	31	71	250

沖島の生活環境

◆ 水道、し尿処理

- ・ 昭和36年の沖島上水浄水場竣工により、上水道普及率は100%また、昭和57年に沖島浄化センターが竣工し、下水道普及率は100%

◆ ゴミ処理

- ・ 市所有の運搬船を、自治会が当番制で、対岸の小田ヶ浜まで運搬し、市委託業者が第2クリーンセンターまで運搬し処理

◆ 医療

- ・ 毎週水曜日の午後、沖島診療所(コミュニティーセンター)まで医師が派遣され、平成14年に湖底光ケーブルの開設により沖島診療所から近江八幡市医療センターを結ぶ遠隔医療システムが稼働

◆ 教育

- ・ 明治8年に奥津学校が設置され昭和22年に中学校を設置したが、昭和39年には中学校を対岸の八幡中学校に統合する。

◆ 交通

- ・ 市道延長は約1,100mであり道幅は1m前後の軒先道路。島内では自動車はなく移動手段は自転車。島外へは自治会が所有、運営する通船が一日11便運航

沖島の課題

- ◆ 職業に魅力が感じられない。
- ◆ 地域には何も無い。
- ◆ 高齢化し、資源の整備及び維持が出来ない。
- ◆ 後継者がいない。

産業の活性化と高齢者雇用

◆ 資源、産業の構築と整備

- ・資源の地産地消
- ・稚魚の放流
- ・里山の再生
- ・魚付き保安林の整備

◆ 沖島の総収入を増やし、自活できる体制の構築

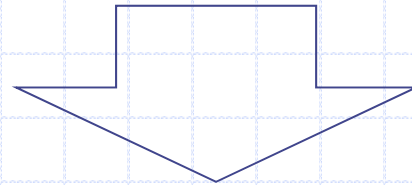
- ・沖島マツタケの再生への取組み(林野庁 山村再生プラン)
- ・外来魚を使ったペットフード事業、コロツケの商品化
- ・沖島うなぎまつり(内閣府 地域活性化伝道師制度)
- ・間伐材の建築材や燃料への転換
- ・堆肥肥料を活用した農作物の生産

◆ 後継者の育成

- ・漁業体験 — 地引網、鮒ずしの仕込み、魚拓、料理
- ・林業体験 — マツタケ栽培、木工、遊歩道散策、山菜狩
- ・農業体験 — ヨシすだれ作成、長寿草履づくり

資源の地産地消

- ◆ 太陽光発電 (カナディアンソーラー・ジャパン(株))
- ◆ 太陽熱発電 ((株)日吉)
- ◆ バイオマス燃料 ((株)日吉)
- ◆ 下水汚泥と生ゴミの燃料化 ((株)日吉)



沖島夢プラン21世紀実行委員会